

「認知症と口腔機能 (Dementia and Oral Function)」投稿の手引き

Ver. 2022.1120

「認知症と口腔機能 (Dementia and Oral Function)」への投稿は、投稿規定と本手引きに準拠する。

I. 投稿方法の概要

投稿は、認知症と口腔機能研究会事務局宛へEメールにより送信する。

1. 投稿時の必要書類は、①原稿、②投稿票・チェックリスト、③承諾書、④利益相反申告書である。
2. 投稿票には、論文の種別、表題、著者名、責任著者連絡先（氏名、所属機関名、住所、電話番号、Fax番号、電子メールアドレス）、原稿枚数、図枚数、表枚数を記入する。
3. 承諾書および利益相反申告書は著者全員の署名済みのものをPDFファイル化すること。
4. 英文抄録ならびに英文の原稿については、投稿前に必ず英文校閲を受け、投稿時に校閲証明書を添付すること。
5. 原稿は次の順に作成し、番号ごとに改頁する。
表題の頁を第1頁とし、頁番号を下段中央に記す。表、図も原則同一ファイルに貼りつける。
 - 1) 表題（和文、英文）、（ランニングタイトル）、著者名、所属
 - 2) 和文抄録、和文キーワード
 - 3) 英文抄録、英文キーワード
 - 4) 本文原稿
 - 5) 文献
 - 6) 図表のタイトルおよび説明
 - 7) 表、図（写真を含む）

II. 投稿原稿の書き方

1. 原稿ファイル種類

MS Word（97-2003文書以降を使用する）

2. 査読原稿の種別

査読を受ける原稿の種別は、総説、原著論文、症例報告、その他とする。英語で記載された論文も受け付ける。

3. 原稿の様式

- 1) 原稿は、口語体、新かなづかい、平かな、横書きとし、文字サイズ12ポイント程度を原則とする。なお、全角2000字程度で刷り上がり1頁に、また、図表は各1枚が標準のサイズ（本誌の片段に収まるもの）6枚で刷り上がり1頁に相当するので、原稿作成時の参考にする。
- 2) 数字、英字はすべて半角で入力する。英文ではArialもしくはTimes New Romanフォント、12ポイント以上の大きさの文字を用いてダブルスペースで作成する。スペースは半角にする。

4. 原稿の記述様式

1) 表題

表題は 40 文字以内とする。表題には原則として略号を用いない。万一用いる場合には、抄録および本文中の初出時に、正式名称と略号を併記する。

2) 和文抄録および英文抄録

和文抄録および英文抄録は、要約を全体でそれぞれ 500～600 字および 200～300 words で簡潔に記載する。なお、抄録の末尾に字数および word数をそれぞれ記載する。和文および英文キーワードは和文、英文ともに 5 つ以内とし、略号を用いてはならない。

3) 本文の構成および記述法

①総説

原則として本文刷り上がり 10 頁以内とする。総説論文は、ある特定の論題について読者の役に立つ情報を紹介し、要約しようとするものである。

対象とする領域の背景やこれまでの研究成果を正確に紹介するものとし、参考文献の採択に特に配慮する。その際に、著者の独善的な意見やバイアスによって大きく影響を受けることがないようにする。また、情報を探し、選択し、まとめるために用いられた手法が記載されていることが望ましい。

②原著（基礎研究，臨床研究）

原著論文は、研究の新規性が高く、客観的な結論が得られ、歯科の発展に寄与するものであること。原則として刷り上がり 10 頁以内とする。

<原著論文の構成>

- a. 緒言：研究の背景や新規性，研究目的および研究の意義が明確に理解できるように記述する。
- b. 研究方法（材料と方法）：使用した材料や装置，あるいは方法を明確に記載し，同一の方法で追試が行えるように，わかりやすく記述する。また，実験条件の設定，試料の数や抽出法，統計処理等が，研究目的に合致していること。
- c. 結果：客観的事実のみを記述し，著者の主観を交えたような表現を避ける。計測結果は数表による表示を原則とし，平均値と標準偏差などの特性値を併記する。有意差検定，多重比較等の検定法を記載する。
- d. 考察：方法，結果などについて，従来の文献を参考に十分推敲を重ね，独断的にならないように，また論旨が飛躍しすぎないように注意する。さらに，研究目的に対する考察に的を絞り，総論的な考察は避ける。また，得られた結果のみではなく，それがどのような意義があるのかも記述する。緒言との重複や結果の繰り返しの記載は避ける。
- e. 結論：得られた結論のみを正確かつ簡潔に記述する。その際，緒言で提示した研究目的や仮説との整合性に注意する。

③ 症例報告

補綴臨床において定説となっている診断法，治療法，治療術式の修正等についての提言，あるいは，きわめて珍しい症例，予期せぬ合併症，予期せぬ展開をみた症例についての報告等が該当する。読者が同様の症例を治療する際の参考となるよう，症例について具体的かつ簡潔に記述する。原則として本文刷り上がり 6 頁以内(本文の文字数，図表の大きさの目安はII-3.参照)とする。
 <症例報告の論文構成>

- a. 緒言：症例の歯科臨床における位置づけや特徴に触れ，抽出された問題点を述べ，その症例がなぜ報告に値するのかを明確に述べる。
- b. 症例の概要：診査・検査所見，診断と治療方針，治療，経過など，症例の概要について具体的かつ簡潔に記述する。その際，読者の理解を容易にするため，必要に応じて小見出しを用いてもよい。

<記述例>

(1) 症例の概要

- a. 患者：年齢，性別
- b. 初診日：西暦で記載
- c. 主訴：患者が最も訴えている事項（病名・診断を記載しない。“障害”は病名で用いる用語である）
- d. 既往歴：全身的，歯科的（記載内容がない場合は，“特記事項なし”と記載）
- e. 現病歴：当該部位の初診までの病歴
- f. 現症：全身所見，口腔内所見
 不適切用例：咀嚼障害，審美障害，発音障害
 適切用例：咀嚼困難，審美不良，発音困難
- g. 検査結果：エックス線所見，臨床検査所見，術前の機能評価，その他
- h. 診断：病名の記載方法は日本補綴歯科学会 ホームページ (http://www.hotetsu.com/s2_07.htm)などを参照のこと。

(2) 治療内容と経過：

- a. 治療方針および計画：治療順序，インフォームドコンセントの内容などを含む。
- b. 処置内容：前処置，補綴術式，技工術式など
- c. 術後の経過
- d. 術後の機能評価

(3) 考察：関連のある重要な文献を引用し，報告する症例について議論する。症例，治療，経過の特徴に触れ，その症例の補綴学的位置づけについても言及する。

(4) 結論：読者の臨床に役立つ点を示唆する記述を含む。

④ その他 / 技術紹介

新しい臨床術式や研究法あるいは材料の使用法などを紹介するもので、原則として刷り上がり 6 頁以内(本文の文字数, 図表の大きさの目安はII-3.参照)とする。新製品紹介や単なる技術情報ではなく、著者の提案する改良・改善によって、治療の有効性, 安全性, 長期安定性あるいは機材の性能等がより向上することが記述されている必要がある。

<技術紹介の論文構成>

- a. 緒言：紹介する技術（術式, 研究法, 使用法など）の目的を明確に記載する。
- b. 材料とその使用法：材料, 装置, 使用法, 方法, 術式等について, 明確に, 順序立てて, わかりやすく記述する。
- c. 従来の方法との違い：従来法と異なる新工夫・新規性に関して要点を絞り, 簡潔に記載する。特に, 著者が開発あるいは工夫した点について, 明確に記載する。
- d. 効果あるいは性能：改良・改善によって得られる, 術式や治療の有効性, 安全性等の向上について, 明確に記述する。また, 紹介する術式の利点・欠点についても記載する。
- e. 結論：従来法と異なる新工夫・新規性, 改良・改善された点, およびその効果等について, 得られた結論のみを正確かつ簡潔に記述する。

5. 文献の記載様式

(ア)本文で引用した順序に一連番号を付して列記し, 本文の末尾に記載する。

同一箇所複数引用した場合は年代順とする。

(イ)著者名は姓, 名（外国人はイニシャルのみ）の順とする。

(ウ)引用文献の表示は原著の表示に従う。英文の場合は, 文頭の語の頭文字のみ大文字とする。

(エ)雑誌文献引用記載は次の方式による。

- a. 雑誌論文は著者. 表題. 雑誌略名 発行年（西暦表示とする）; 巻: 頁-頁. の順に記載する。頁は通巻頁を原則とするが, 頁表記が 1 号ごとに第 1 ページから始まる（通し頁でない）雑誌に限り, 号も記載する。
- b. 雑誌の略名は当該誌が標榜する略称（付: 学術雑誌略号一覧参照）とする。それ以外は医学中央雑誌の略名表と Index Medicus に準拠する。
- c. 原書あるいは原論文が得られずに引用する場合は, 末尾に（から引用）と付ける。
- d. 受理されたが未発刊の文献は末尾に印刷中（英文の場合は, *in press*）と記載する。
- e. Web ページの引用記載様式は, Vancouver style とする。

一般例:

山崎彰啓, 清水政利, 黒崎俊一, 湯浅智, 谷津悟, 藤森克俊ほか. 印象採得法の臨床的検討. 補綴誌 1988; 32: 403-408.

Beresin VE, Schiesser FJ. The neutral zone in complete denture. J

Prosthet Dent1976; 36: 356-357.

Cancer Research UK. Cancer statistics reports for the UK,

<<http://www.cancerresearchuk.org/aboutcancer/statistics/cancerstatsreport/>>; 2003 [accessed 13.03.03].

通し頁でない雑誌の例：

竹山守男， 檀淵信郎， 中林宣男， 増原英一． 歯科用即硬性レジンに関する研究（第17報）

歯質および歯科用金属に接着するレジン． 歯理工誌 1978; 19 (47):179-185.

O'Neal SJ, Leinfelder KF, Barrett CE. Clinical evaluation of Dentacolor as a posterior veneering agent. J Esthet Dent 1989; 1 (1): 29-33.

(オ)単行本文献引用記載は次の方法による。

- a. 単行本は著者． 書名． 発行地： 発行者； 発行年， 頁-頁． の順に記載する。
- b. 単行本の書名は略記しない。
- c. 単行本を2カ所以上で引用する際は， 各々の引用頁を記載する。

例：

藤田恒太郎． 歯の組織学． 東京： 医歯薬出版； 1958， 122-130.

Glickman I. Clinical Periodontology. Philadelphia： Saunders； 1953, 76-78 . Shillingburg HT, Hobo S, Whitsett LD, Brackett SE. Fundamentals of fixed prosthodontics, 3rd ed. Chicago： Quintessence； 1997, 155-169, 211-223.

- d. 分担執筆の単行本文献引用記載は次の方式による。

分担執筆の単行本は分担執筆者． 分担執筆の表題． 編者または監修者， 書名， 巻などの区別， 発行地： 発行者； 発行年， 頁-頁． の順に記載する。

例：

津留宏道． テレスコープシステムの理論と実際． 林都志夫， 保母須弥也， 三谷春保ほか編， 日本の補綴， 東京： クインテッセンス出版； 1981， 277-291． Ogle RE. Preprosthetic surgery. In： Winkler S, editor, Essentials of complete denture prosthodontics, Philadelphia： Saunders； 1979, 63-89.

(カ)翻訳書文献引用記載は次の方式とする。

翻訳の単行本， 論文は著者（翻訳者）． 書名（翻訳書名． 発行地： 発行者； 発行年， 頁-頁． ）， 発行年． の順に記載する。

例：

Hickey JC, Zarb GA, Bolender CL (川口豊造). Boucher's prosthodontic treatment for edentulous patients (バウチャー無歯顎患者の補綴治療． 東京： 医歯薬出版； 1988, 397-399.), 1985.

6. 表と図の書き方

(ア)図表の枚数は必要最小限にとどめる。

(イ)表と図（写真を含む）は本文で引用順に、表は表 1, 表 2..., 図（写真を含む）は図 1, 図2...のように一連番号をつけ、原稿ファイルに貼りつける。
図表 1 枚ごとに改頁する。

7. 原稿ファイルの総データサイズが15 メガバイト(MB)未満となるよう可能な範囲内でできるだけ鮮明に図表の画像データを調整する。もし画像解像度が著者の満足する水準に至らない場合は、投稿論文受領後、出版前最終校正時に所望する画像データを学会事務局担当者へ送付する。

8. その他論文作成上の留意事項

(ア)見出しは次の順に項目をたて、順に行の最初の一画をあける。

I, II, III, IV, V,

1, 2, 3, 4, 5,

1), 2), 3), 4), 5),

(1), (2), (3), (4), (5),

a, b, c, d, e,

a), b), c), d), e),

(a), (b), (c), (d), (e),

(イ)材料、器材の表記は、一般名（製品名、製造社名、所在地、国名）を原則とする。例：即時重合レジン（ユニファースト、GC、東京、日本）

(ウ)歯学学術用語などについては平成 4 年日本歯科学会発行の「学術用語集歯学編（増訂版）」、令和元年公益社団法人日本補綴歯科学会発行の「歯科補綴学専門用語集（第 5 版）」に準拠する。

(エ)計測データとその取り扱い：計測データは、原則として、平均値、標準偏差等の統計値を用いて表現されるべきである。また、データの属性や分布に応じて、適切な統計解析を行わなければならない。詳細については「統計解析のガイドライン」を参照する。

(オ)数字は算用数字とする。

(カ)数字を含む名詞、形容詞、副詞（例：十二指腸、三角形など）は漢数字とする。

(キ)単位は原則として国際単位系の基本単位、補助単位および組み立て単位を使用する（温度は摂氏を使用する）。

参照：単位及び単位間換算表：日本金属学会編（及川洪）。「改訂二版金属データブック」（1984）丸善（株）

SI 単位換算表：日本歯科材料工業協同組合編、「ガイドブック」1992 年版 日本規格協会

- (ク)略語，略号は国際的に慣用されている用語を使用する。
- (ケ)外国語はすべて原綴りとし，文頭にあっても大文字にしない。ただし，固有名詞は最初の文字を大文字で書く。
- (コ)英文の改行に際しては，word で切る。

(サ)微生物，動植物などの学名は，二名法によりイタリックとし，最初の文字だけ大文字で書く。たびたび使用する場合は，2 回目以後属名を省略してもよい。

例：Streptococcus mutans→ S. mutans

(シ)英文原稿の綴りは米国語綴りを基本とする。

(ス) 歯式の記載方法

- a. 本文中の表記は，上下顎，左右側，歯種の順とする。
例：上顎右側第一大臼歯
- b. 理解の補助のために歯式記号を付記することを勧める。
- c. Zsigmondy/Palmer 式の歯式表記法（以下歯式記号と略す）を勧める。
例：上顎右側第一大臼歯（6）
この場合，歯式に用いる特殊記号・外字などは，現時点では電子ファイルを介しての伝達が困難であることに注意する必要がある。
- d. 省略形は避けて，歯式記号とする。
例：右上 6 番は，6 と記載する。
- e. ブリッジなど表現が難しい場合は，歯式記号表記のみでもよい。例：
③4⑤⑥
- f. 図・表中の表記は，できるだけ，歯式記号を用いる。
- g. 表題には原則として歯式記号を用いない。

III. 投稿論文の査読

投稿論文の査読に際しては，別途定める“査読の手引き”に従って行うこととする。

IV. 利益相反状態の記載

本会の定める「研究の利益相反に関する指針」および細則に従い，利益相反（COI）状態が存在する場合は，自己申告による COI 報告書）を用いて学会事務局へ届け出ることとする。また，COI 状態を謝辞または文献の前に利益相反と項目立て記載する。規定された COI 状態がない場合は，「開示すべき利益相反はない」と記載する。

V. 論文費用

1) 掲載料

原稿種別を問わず当面は無料とする。

2) 別刷

① PDF 1部は無料とする。

②原著, 技術紹介, 症例報告の別刷(冊子体)を希望する場合、印刷費用は別途示す。

VI. 学会誌掲載時の校正

1. 学会誌掲載時の校正は著者が行う。学会事務局から電子メールで著者に送付されるPDFファイルの校正用原稿にて校正を行う。
2. 校正を終了した原稿は、電子メール等で速やかに返送する。

VII. 連絡・問い合わせ先

〒700-8525

岡山県岡山市北区鹿田町 2-5-1

岡山大学学術研究院・医歯薬学域,インプラント再生補綴学分野内

学会誌編集担当

Tel/Fax: 086-235-6684

Email: office@jrsof.net

<https://www.jrsof.com/>

VIII 改廃

この手引きの改廃は、編集委員会の発議により、世話人会の承認を得なければならぬ。

附 則

- 1 この手引きは、令和4年11月20日から施行する。